

知の市場 — 理念と実践 —

(2013年度実績と2015年度計画)

第6回知の市場年次大会
2015年2月12日

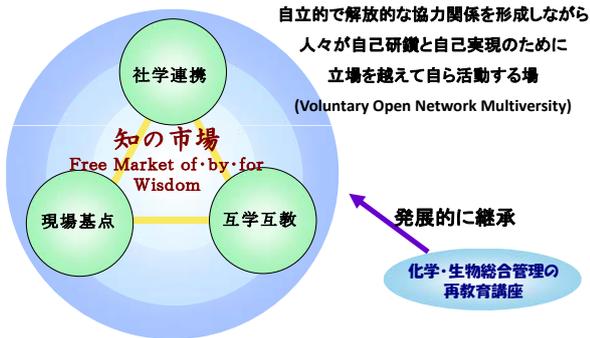
知の市場会長
増田優

於:お茶の水女子大学

I. 理念と運営

知の市場

— 化学生物総合管理の再教育講座の発展的継承 —



知の市場の展開

第0期:黎明期(～2003年度)

第I期:形成期(2004年度～2008年度)

第II期:展開期(2009年度～2012年度)

第III期:基盤完成期(2013年度～2015年度)

自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築

第IV期:自立発展期(2016年度～)

完全にボランティア活動で運営する教育活動

「真の教育立国」の新展開

知の市場の展開

第0期:黎明期(～2003年度)

- 1) 実社会に根ざした「知の世界」の構築を目指す活動を本格化
- 2) 「互学互教」、「社会学連携」、「知の市場」などの概念を創造
- 3) 理念を共有する有志を糾合して連携機関の原型を形成

第I期:形成期(2004年度～2008年度)

- 1) 5年計画で「化学・生物総合管理の再教育講座」を開始
- 2) 「現場基点」の概念を提起し、「互学互教」、「社会学連携」の概念に追加し、「知の市場」の理念を完成
- 3) 開講機関の概念を導入して運営体制を強化

第II期:展開期(2009年度～2012年度)

- 1) 自主的かつ自発的な教育活動として「知の市場」の名で新展開
- 2) 開講科目の分野を拡大しながら全国への展開を促進
- 3) 自立的にして自律的に活動する基盤の構築を本格化

第III期:基盤完成期(2013年度～2015年度)

- 1) 社会を構成する多彩な人々が自主的、主体的に参画する活動の基盤を確立
- 2) 「知の市場」がさらに自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

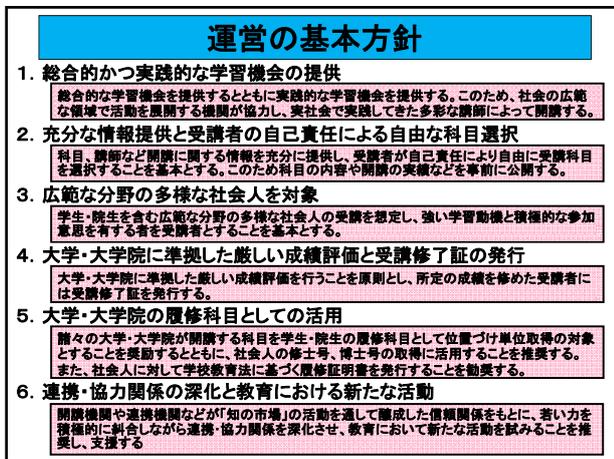
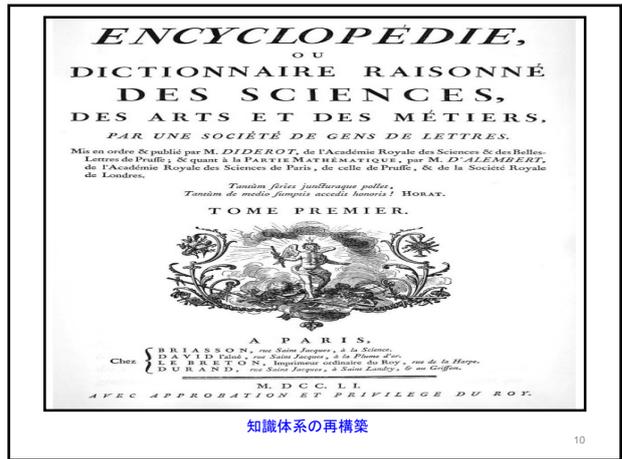
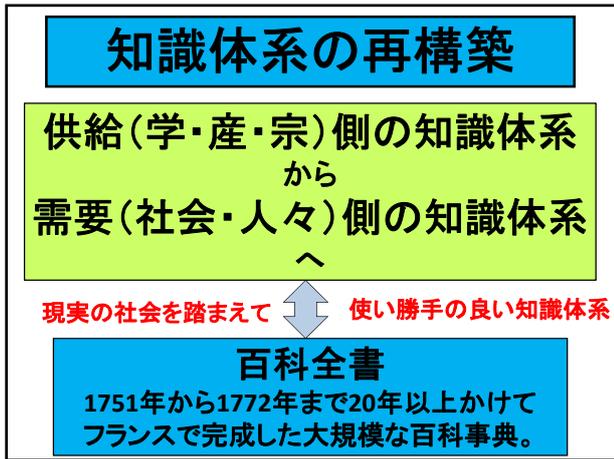
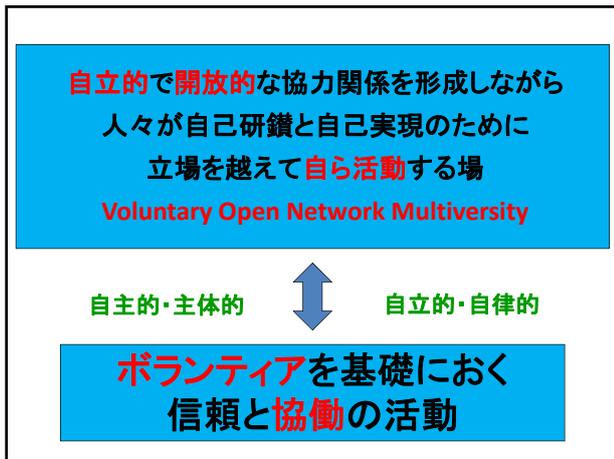
知の市場
Free Market of Wisdom

知識の切り売りを排し、
対面教育を重視



自由な交流を尊重し
知の伝播と普遍化を重視

知恵を持ち寄り
互いの知恵を活かし合う場



知の市場の構成

共催講座:

「知の市場」の理念と基本方針に沿いつつ「知の市場」の運営体制を踏まえて、連携機関の協力のもと開講機関が主催する。

関連講座:

「知の市場」の基本方針を念頭に置きつつ諸般の状況を踏まえて個々の主催者が自らの主体性と責任のもと柔軟かつ弾力的に運営する。

再教育講座や共催講座での経験を活かした活動、開講機関や連携機関が実施する活動、自己研鑽と自己実現に資する活動などであって「知の市場」の理念を共有する活動。

多様な事情に応じ得る弾力性の確保

参画者の連携強化の方策

1. 知の市場の理念・基本方針の公開
2. 諸規定の充実と公開
3. 運営体制の簡素化・効率化と協働関係の強化
 - 1) マニュアルや受講修了証などの諸様式の標準化
 - 2) 「知の市場」のロゴマークの統一
 - 3) 共通受講システムの導入
 - 4) 参画機関のHPの整備と相互リンク
4. 学生・院生の若い力と社会人有志の経験を積極的に活用

理念を共有しつつ各機関の主体性の尊重
規範の統一と手段の標準化による連携強化

規定による協働関係の強化

知の市場—理念と運営—

応募及び受講に関する規定

応募にあたっての留意点に関する細則

応募方法に関する規定

成績評価及び受講修了証などの発行に関する規定

奨励賞の授与に関する規定

連絡方法に関する規定

受講者、講師等への連絡方法に関する細則

受講者及び講師のアンケートに関する規定

知の市場友の会規約

認識の共有化のため規範の明確化と公開

要領による運営体制の簡素化・効率化

業務及び年間予定に関する要領

開講機関と開催地の表記及び科目の分類と表示に関する要領

ホームページの開設及び共通受講システムの導入に関する要領

広報に関する要領

ID及びパスワードの設定並びに管理に関する要領

講義資料の作成及び知的財産権の扱いに関する要領

講義の準備と進め方に関する細目

資料などの保管及び電子的方式でつくられる資料の名称付けに関する要領

受講修了証の作成及び発行の方法及び手順に関する要領

年次大会の開催に関する要領

知の市場奨励賞の授与の決定手順及び選考基準に関する要領

活動の合理化のため手段や様式の標準化と共有

教育の基本方針

1. 総合的な学習機会の提供

大学院水準のしっかりとした
自己研鑽の機会の提供

社会においてそれぞれの立場で役割を果たす人材の育成に資するため、現代の社会と世界の動向を理解するために必要な広範な領域を学ぶ機会を提供

2. 実践的な学習機会の提供

専門機関・研究機関、産業界、NPO・NGO、大学との連携により、実務経験を豊富に有する者が講師として参画し、実社会に根ざした学ぶ機会を提供

3. 十分な情報提供と受講者の自己責任による自由な科目選択

受講者の的確な科目選択に資するため、科目を分野別、水準別に分類して明示し、講義内容や講師などの情報、講座の計画と実績に関する情報など詳細な情報を提供したうえで、受講者自身が自らの必要に応じて自らの判断と責任で科目を選択

4. 大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

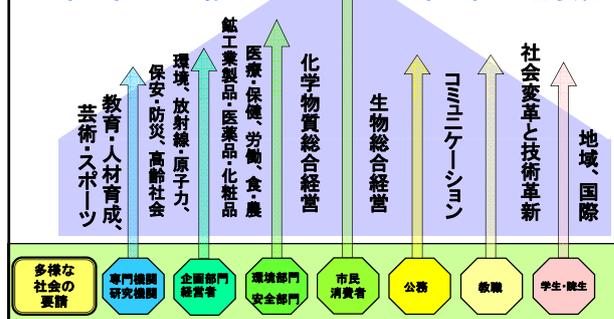
応募動機の確認から始まり、講義毎に出席を確認し15回小レポートを提出。最終レポートを提出。大学・大学院に準拠した基準に従い、出席状況と最終レポートを評価して所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付

総合的な学習機会の提供

—多様な社会人の幅広い要請に応える場—

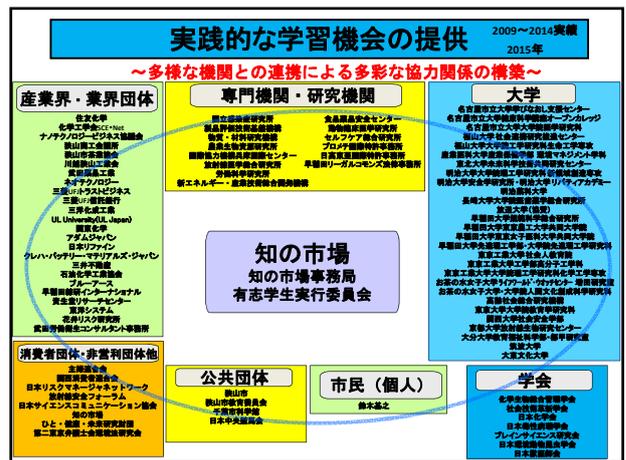
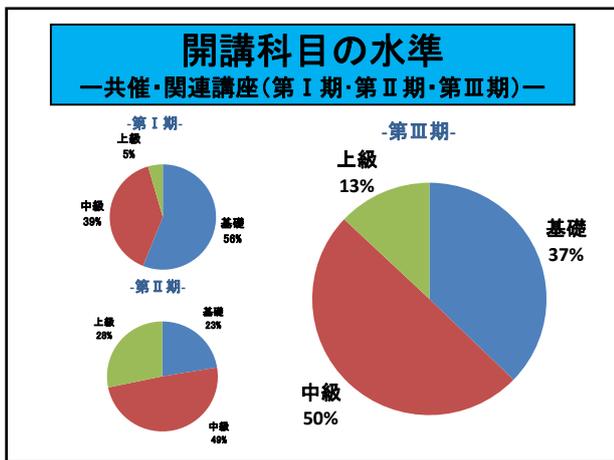
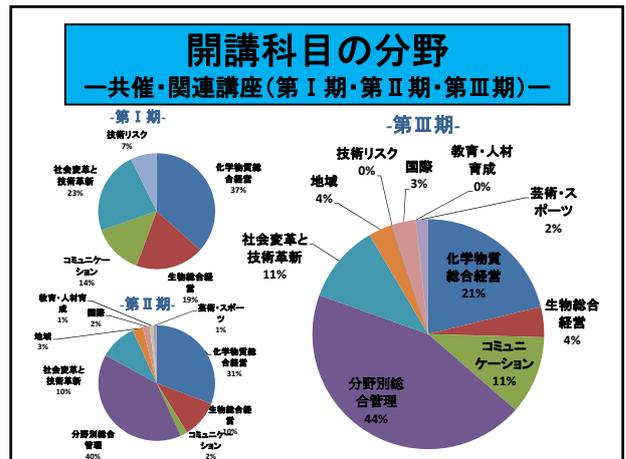
それぞれの立場

それぞれの必要性



開講分野の科目分類

大分類	中分類	
共催講座	1.化学物質総合経営	4 分野別総合管理
	2.生物総合経営	1) 医療・保健
	3.コミュニケーション	2) 労働
	4.分野別総合管理	3) 食・農
	5.社会変革と技術革新	4) 鉱工業製品・医薬品
	6.地域(2011年度新設)	5) 環境
	7.国際(2012年度新設)	6) 放射線・原子力
	8.教育・人材育成(同上)	7) 保安・防災
	9.芸術・スポーツ(同上)	8) 歴史
関連講座	5 社会変革と技術革新	
	1) 技術革新	
	2) 物質材料・化学技術	
	3) 資源・エネルギー	
4) 金融・三次産業ほか		
5) 知的財産・特許		
6) 基準・認証・標準・試験		
7) 法制		
8) 歴史		
敬養編		
専門編		
研修編		
大学・大学院編		



十分な情報提供と 受講者の自己責任による自由な科目選択

応募者の科目選択に資するための十分な情報提供

科目の分野別・水準別分類
講義内容や講師の詳細な情報を記した各科目のシラバス
開講機関や知の市場全体についての講座の計画と実績

(1) 知の市場をはじめ、開講機関・連携機関などのホームページ <http://www.chinoichiba.org/>
科目内容、科目の詳細、講師の詳細、講義の計画・実績、募集要項、応募申込書

ホームページの充実

(2) メールによる案内
現在及び過去の受講者や講師で構成する「知の市場友の会」へのメール配信
開講機関・連携機関によるメール配信
協力機関によるメール配信

(3) パンフレット、ポスター
知の市場事務局による作成
開講機関・連携機関による作成と配布

(4) 口コミ
個人間の口コミ、上司や所属組織・教育部門からの指示・推奨、その他多様伝達など

(5) 報道
新聞、雑誌の記事掲載など

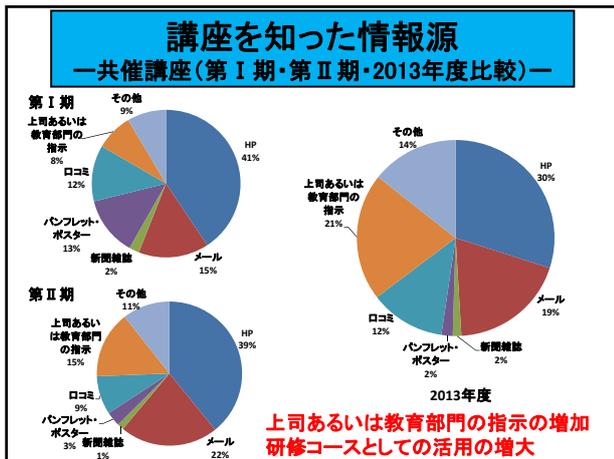
多様な媒体を活用した
徹底的な情報開示

科目の詳細:シラバス(例)

詳細な情報提供
納得した上での受講

科目名	科目の概要・目的・目標	科目の水準	科目の名称	講義の概要・目的・目標	講師名・所属機関名	講義日時
化学物質総合経営	化学物質総合経営の重要性を認識し、化学物質の安全管理の重要性を理解する。化学物質の安全管理の基本的知識を習得し、化学物質の安全管理の実践的な知識を習得する。	基礎	化学物質総合経営	化学物質総合経営の重要性を認識し、化学物質の安全管理の重要性を理解する。化学物質の安全管理の基本的知識を習得し、化学物質の安全管理の実践的な知識を習得する。	佐藤 隆夫	11月10日 18:00-20:00
コミュニケーション	コミュニケーションの重要性を認識し、コミュニケーションの基本的知識を習得し、コミュニケーションの実践的な知識を習得する。	中級	コミュニケーション	コミュニケーションの重要性を認識し、コミュニケーションの基本的知識を習得し、コミュニケーションの実践的な知識を習得する。	佐藤 隆夫	11月10日 18:00-20:00
社会変革と技術革新	社会変革と技術革新の重要性を認識し、社会変革と技術革新の基本的知識を習得し、社会変革と技術革新の実践的な知識を習得する。	中級	社会変革と技術革新	社会変革と技術革新の重要性を認識し、社会変革と技術革新の基本的知識を習得し、社会変革と技術革新の実践的な知識を習得する。	佐藤 隆夫	11月10日 18:00-20:00

*) 詳細は、知の市場HP (<http://www.chinoichiba.org/>) をご覧下さい。



大学・大学院に準拠した厳しい成績評価

(1)-1 毎回の授業毎に出席状況を厳格に管理
 (1)-2 毎回の授業毎に理解度確認のため小レポート提出
 (1)-3 科目終了時に、最終レポートを提出
 (2) 受講者の成績評価は、大学の学部・大学院の採点評価基準に準拠して評価
 ① 出席50点満点、レポート50点満点の合計で採点
 ② 出席点は15回の出席で満点とし、それより少ない出席日数の場合は、出席日数に応じて減点し、出席回数7回以下の場合は履修放棄とみなす。
 ③ レポート点は講義内容の理解度1、2、3自らの考えや主張、論理性や特筆すべき点ごとに個別に評価し、加点する。
 (3) 所定の基準を満たした受講者に対しては科目毎に受講修了証を交付
 A(80~100点)、B(70~79点)、C(60~69点)を合格とし、
 Aのうち特に優秀な者をSと判定。 **大学院水準のしっかりとした教育**



開講状況の推移 — 第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期平均 — (開講機関・連携機関・友の会・協力機関)

年度	第Ⅰ期 (2004-2008年度)	第Ⅱ期 (2009-2012年度)	第Ⅲ期 (2013-2015年度)
開講拠点	2	29	40
開講機関・連携機関	26	41	58
開講機関	2	30	40
連携機関	25	38	44
友の会会員	2857	3333	4874
協力機関	0	64	82

注1: 開講・連携機関の合計の値は、開講機関と連携機関の値の合計を示すが、両方の役割を担っている機関を1つの機関として計上するため、それぞれの値の単純合計とは合致しない。
 注2: 第Ⅲ期の友の会会員、協力機関の値は、2013年度末の数値と2014年6月5日現在の数値の平均を示す。

知の市場(共催・関連講座:合計)

新たな教育のための社会インフラ

年度	拠点	科目	講師	応募者	受講者	修了者
第Ⅲ期 2013-2015	121	239	1948			
第Ⅱ期 2009-2012	115	393	2500	13849	13609	8500
第Ⅰ期 2004-2008	6	221	1731	6017	5957	3307
第Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期 合計	242	853	6179	19866	19566	11807

発展的に継承
自主的に展開

注)ただし、応募者、受講者、修了者は第Ⅰ期・第Ⅱ期の合計。

知の市場(共催・関連講座:期平均)

新たな教育のための社会インフラ

年度	拠点	科目	講師	応募者	受講者	修了者
第Ⅲ期 2013-2015	40	80	652			
第Ⅱ期 2009-2012	29	85	625	3462	3407	2121
第Ⅰ期 2004-2008	2	44	346	1203	1191	661

発展的に継承
自主的に展開

第Ⅰ期、第Ⅱ期、第Ⅲ期の平均値

知の市場の意義(1)

多様な人々に
他に例のない学習の場

経済的理由による
教育機会喪失
の防止



無料・廉価な
受講料

知の世界の拡大の系譜

- 好奇心指向型(キュアロシティ・ドリブン)
- 欲求指向型(デザイア・ドリブン)
- 戦略(構想)指向型(シナリオ・ドリブン)

知の爆発

20世紀初頭～

20世紀第4四半期～

知の世界の構図

—20世紀の変化—

◎ 知の世界

良循環の形成

◎ 知の時代

均衡の確保

☆ 知の創造

☆ 知の伝播

☆ 知の活用

☆ 知の爆発

☆ 知の普遍

☆ 知の暴走

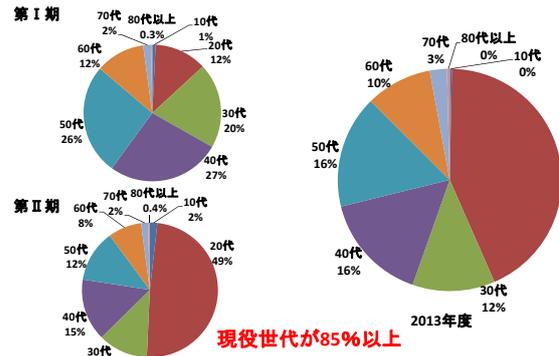
☆ 知の制御

知の偏在が人々の格差を生み社会を不安定化



年齢別応募者

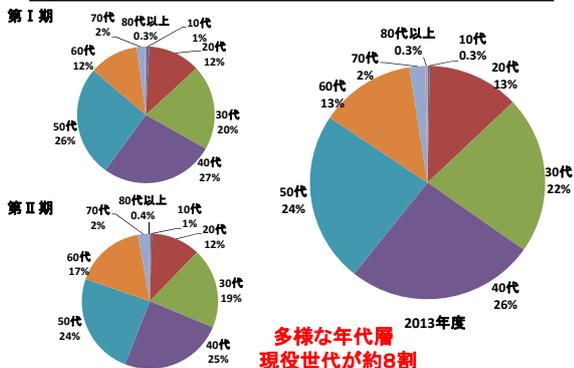
—共催・関連講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—



現役世代が85%以上

年齢別応募者

—共催講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—



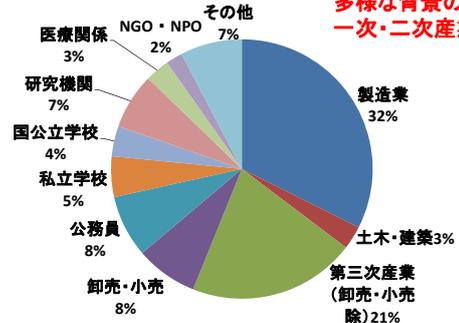
多様な年代層
現役世代が約8割

受講者の所属組織の分野別割合

—共催講座(第Ⅰ期・第Ⅱ期・2013年度比較)—

全2054組織から延べ8269名が受講:1組織あたり受講者4名

多様な背景の受講者
一次・二次産業で過半



知の市場の意義(2-1)

1. 職業人が職業に活用するのに有効



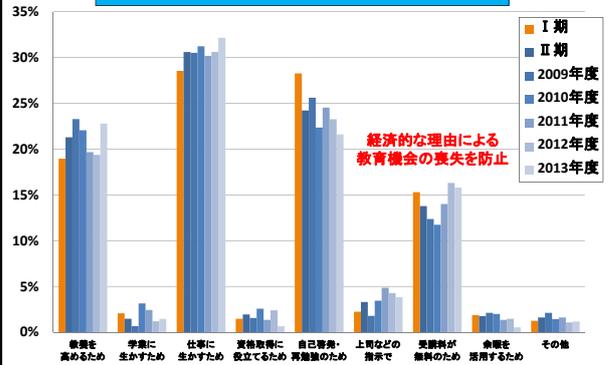
2. 個人が教養を高めるのに有益



他に例のない学習の場

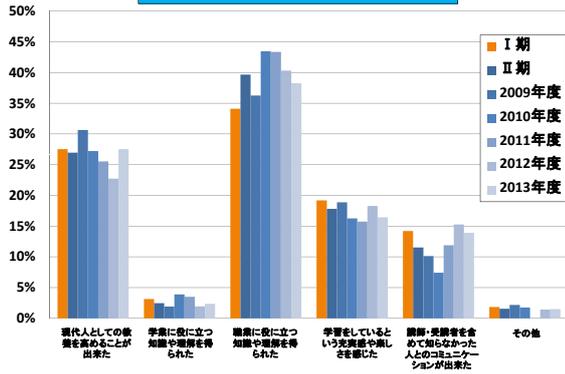
受講動機

— 共催講座: 受講者による評価 —



役に立った点

— 共催講座: 受講者による評価 —



知の世界の新展開

1. Science for Society
社会のための科学
2. Science for Policy
政策のための科学

20世紀第4四半期の
大転換・パラダイムシフト

戦略指向
シナリオ・ビジョン

21世紀以降の
世界と社会の指導理念

好奇心指向 Science on・by Curiosity・Desire 欲求指向

21世紀の世界の構図 — 20世紀第4四半期から勃興 —

実行

シナリオ
想定・戦略
オリエンテッド

科学的知見

論理的思考

規範科学の構図

社会的規範

条約、法律、
自主管理、
慣例、慣習、常識...

先導的に生活・社会・世界を変革

科学的知見

論理的思考

科学と規範の結合

レギュラトリー・サイエンス 規範科学

1. Science for/of Regulation
規範のための科学

2. Regulation on/by Science
科学に基づく規範 (Evidenceベース)

シナリオ(戦略)指向型の新たな事象 — 20世紀 第4四半期以降 —

1. 化学物質の総合管理
 2. オゾン層の保護 オゾン層破壊物質の管理
 3. 地球温暖化の防止 温暖化係数を持つ化学物質の管理
 4. 組換え体の管理
 5. 新型インフルエンザの防疫
- ⋮

事前に十分な準備

着実に継続

資源の投入

科学的シナリオ・想定 に基づく包括的戦略

十分な知識

認識の共有

沈着・冷静な行動

科学的シナリオ・想定に
基づいて戦略的に動く
社会と世界

プロなくして、
法律の制定も運用も
企業や各セクターにおける
判断も行動もなし。

プロ人材の育成は 現状でよいのか??

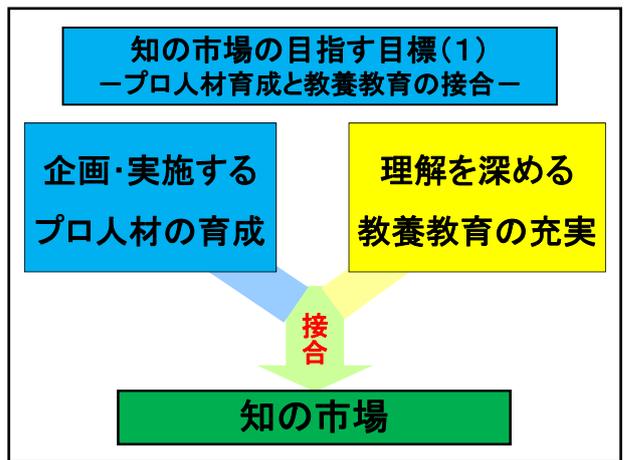
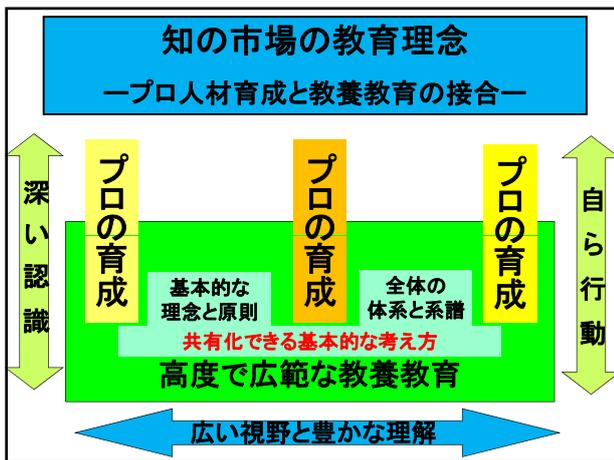
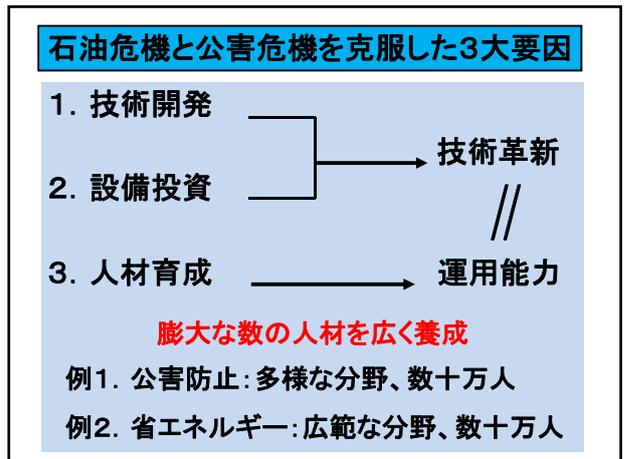
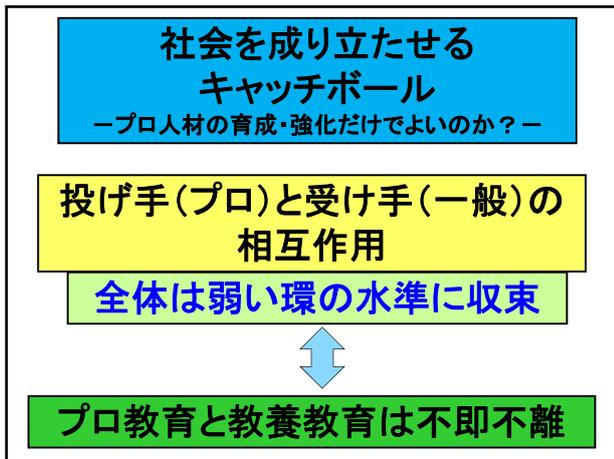
幅広い知識の体系と系譜を理解し(=教養)
専門知識の**意味**を語れずして、
信頼できる判断をし、社会を動かし得る
プロではありません

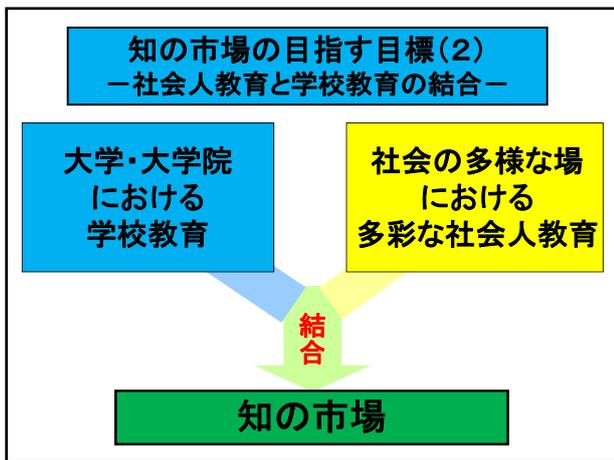
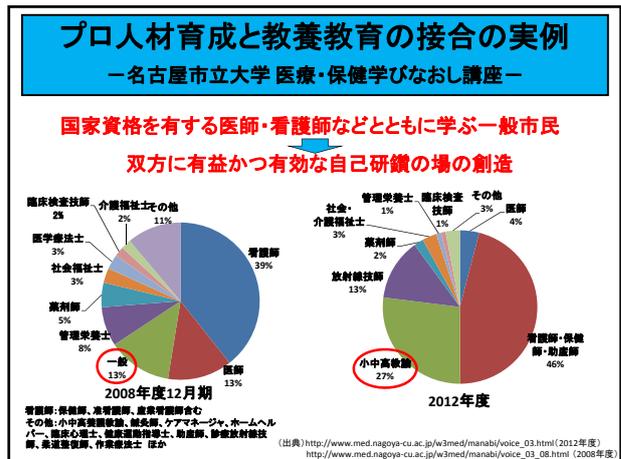
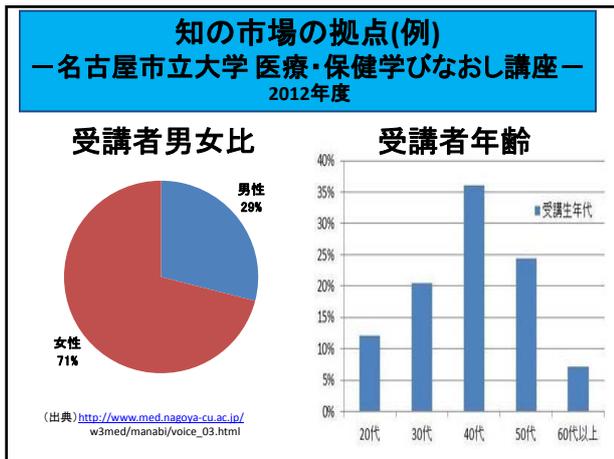
知の市場の意義(2-2)

プロ人材の育成と教養教育の接合

社会人教育と学校教育の連結

他に例のない学習の場





社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

社会人教育の科目が同時に大学・大学院教育に活用されている事例 **合計5科目**

社会人教育としての科目	大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
規範科学事例研究1		
化学物質総合経営学事例研究1	リスク管理(演習)	お茶の水女子大学
法学入門		
安全学入門	安全学特論1	明治大学大学院理工学研究科 新領域創造専攻
製品機械安全特論	新領域創造特論3	

社会人教育から学校教育への展開(2014年度)

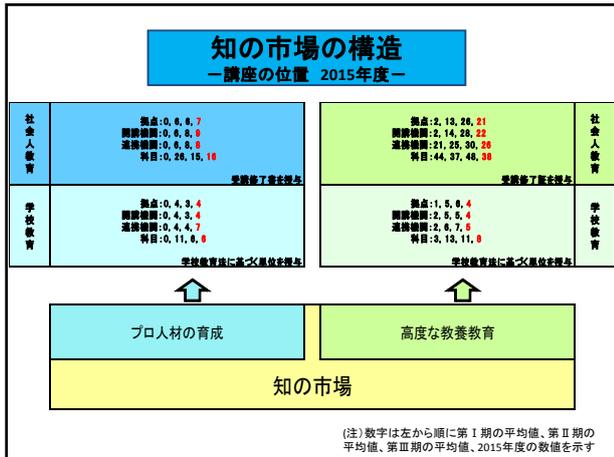
社会人教育の内容や講師が大学・大学院教育に活用されている事例 **合計14科目**

大学・大学院教育としての科目	実施大学・大学院
化学物質総合管理学	早稲田大学 理工学術院 先進理工学研究科 共同先進健康科学専攻
食農総合管理学	
生命科学概論A(建築・電子光学・経営・資源・社会工学)	
生命科学概論A(総合機械)	早稲田大学 理工学術院 先進理工学部
生命科学概論B(化学・応用化学)	
生命科学概論B(生命医科)	
社会技術革新学	お茶の水女子大学
規範科学	
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院
リスクコミュニケーション入門	
資源・エネルギー・安全論	東京工業大学大学院 理工学研究科 化学工学専攻
社会技術革新論a	大分大学教育福祉科学部
化学物質総合管理論a	
日本力論b	鹿児島水産高等学校

学校教育から社会人教育への展開(2014年度)

大学・大学院教育の科目が同時に社会人教育に活用されている事例 **合計5科目**

大学・大学院の教育としての科目	実施大学・大学院	社会人教育としての科目
社会技術革新学	東京・お茶の水女子大学	社会技術革新学基礎論
規範科学		規範科学基礎論
サイエンスコミュニケーション実践論	筑波大学大学院	サイエンスコミュニケーション実践論
リスクコミュニケーション入門		リスクコミュニケーション入門
資源・エネルギー・安全論	東京・東京工業大学大学院	資源・エネルギー・安全基礎論



知の市場の意義の拡大(1)

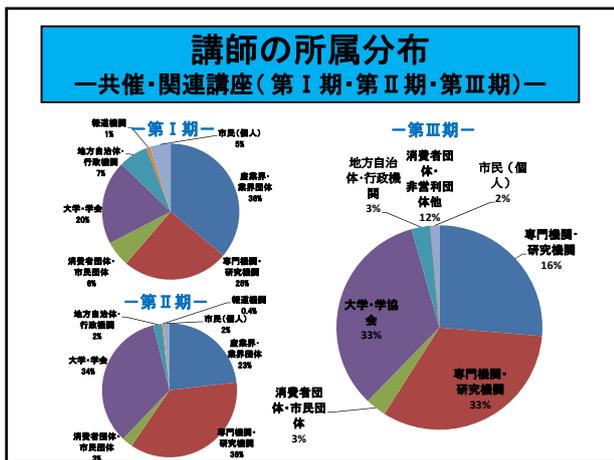
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。

+

3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。

↓

社会の多様性を反映する教育活動



知の市場の意義の拡大(2)

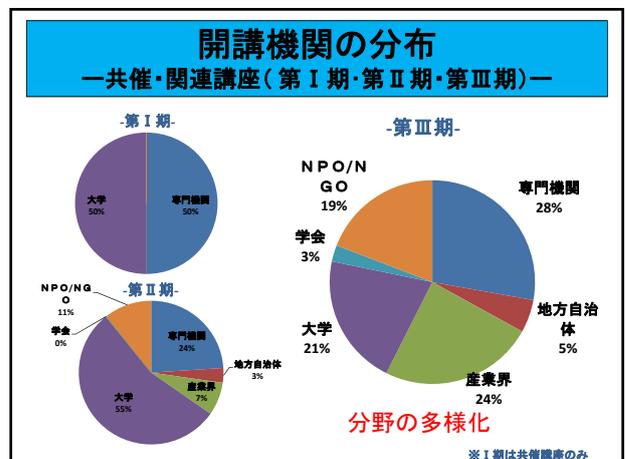
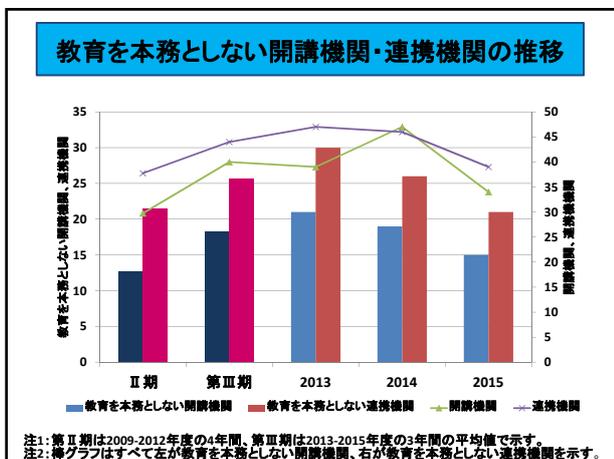
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多彩な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。

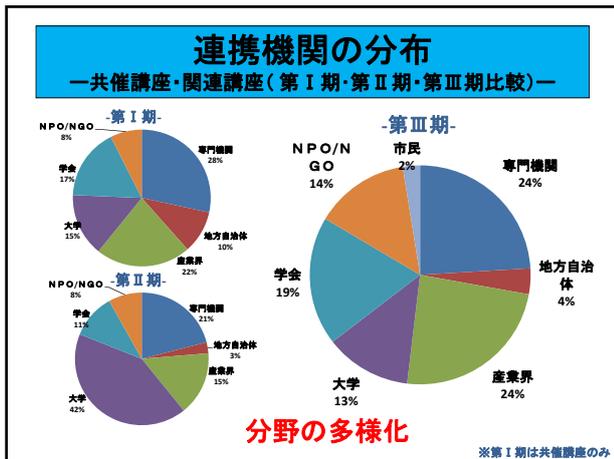
+

4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。

↓

社会の全員が参画する教育活動





- ### 知の市場の意義の拡大(3)
1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
 2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
 3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
 4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
- +
5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う**社会の現場**の全てが**教育の現場**としてもそれぞれ多彩な輝きを放つ
- ↓
- 全国の全ての現場が参画する教育活動**

知の市場の地域別拠点 2014年度

・東京 お茶の水女子大学(Iwwo)/学部、茗荷谷、西早稲田(1)労研、西早稲田(2)主幹道、幡ヶ谷、早稲田大学理工学部/共同先進健康科学専攻、早稲田駅、戸山、日本橋區町、丸の内、九段、大岡山、関西大学東京センター、四ツ谷(1)主幹道、四ツ谷(2)生物研、八重洲、明治大学理工学研究科、放送大学文京学習センター、日本中央競馬会、筑波大学東京キャンパス、 大学大学院、東京工業大学理工学研究科	24拠点
・埼玉 狭山、狭山元氣プラザ	2拠点
・神奈川 川崎官前区	2拠点
・千葉 千葉	1拠点
・愛知 名古屋市立大学(1)最新医学、名古屋市立大学(2)学びなoshi	2拠点
・京都 京都大学	1拠点
・大阪 千里山、関西大学高槻	2拠点
・鳥取 倉吉	1拠点
・大分 大分大学	1拠点
・福島 いわき	1拠点
・鹿児島 鹿児島、枕崎	2拠点

第12回協議会後に追加された拠点・科目

1. 大分県大分大学	大学大学院編	2科目
2. 大分県大分市	教養編	1科目
3. 大分県 ふないまちなか大学		1科目
4. 滋賀県彦根市		1科目
5. 大阪府大阪市		1科目
6. 福島県田村市		1科目
7. 香川県海音寺市		1科目
8. 兵庫県加東市		1科目
		15拠点+8拠点

ふないまちなか大学

— 大分県内の新たな動き —

ふないまちなか大学
セントポルタ中央町アーケード (大分市中央町1-1-13)
イスラムとアラブを知るための科目
家庭科力を高める科目

大分・〇〇まちなか大学
別府まちなか大学
湯布院まちなか大学
中津まちなか大学
杵築まちなか大学

一村一人運動
↑
一村一品運動

ふないまちなか大学 一家庭科力を高める科目シラバス案

科目名	単位数	履修条件	担当教員	開講時期	備考
イスラムとアラブを知るための科目	1		山本 浩二	2014年度 春学期	大分県立大分大学 大分市中央町1-1-13 セントポルタ中央町アーケード
家庭科力を高める科目	1		山本 浩二	2014年度 春学期	大分県立大分大学 大分市中央町1-1-13 セントポルタ中央町アーケード
...

開講拠点—2014年度共催・関連講座(1)—		51拠点 ←39拠点	
18拠点		33拠点	
共催講座開講拠点	～22拠点	関連講座開講拠点	～17拠点
東京・お茶の水女子大学	東京・茗荷谷	豊知・名古屋市立大学(1)最新講学	
東京・放送大学文京学習センター		東京・筑波大学東京キャンパス	
東京・西早稲田(1)労研		千葉・千葉	
埼玉・秩山		鹿児島・鹿児島	
東京・丸の内		鹿児島・牧崎	
鳥取・倉吉		大分・大分大学	
大坂・千屋山		大分・大分	
東京・戸山		神奈川・川崎高津区	
東京・日本橋室町		東京・早稲田	
京都・京都大学放射線生物研究センター		東京・関西大学東京センター	
東京・九段		東京・池袋	
東京・大岡山		東京・四ツ谷(3)生協館研	
大坂・関西大学高槻		京都・京都大学放射線生物研究センター	
東京・西早稲田(2)		豊知・名古屋市立大学(2)学びなほ	
東京・四ツ谷(1)主婦連		東京・明治大学	
東京・幡ヶ谷		神奈川・川崎高津区	
東京・八重洲		埼玉・秩山元氣プラザ	
東京・四ツ谷(2)生協研			

知の市場の意義の拡大(4)

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
5. 全国の津々浦々で随々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多様な動きを放つ。

+

6. 自由な意思を持った人々の自発的で主体的な参画により、自立的であつ自律的な活動を永続的に展開

↓

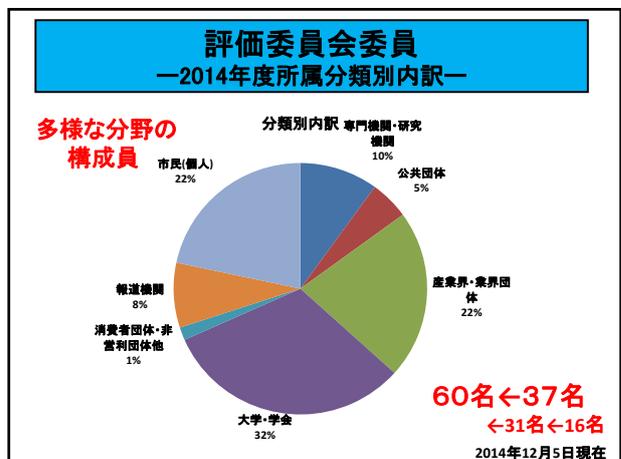
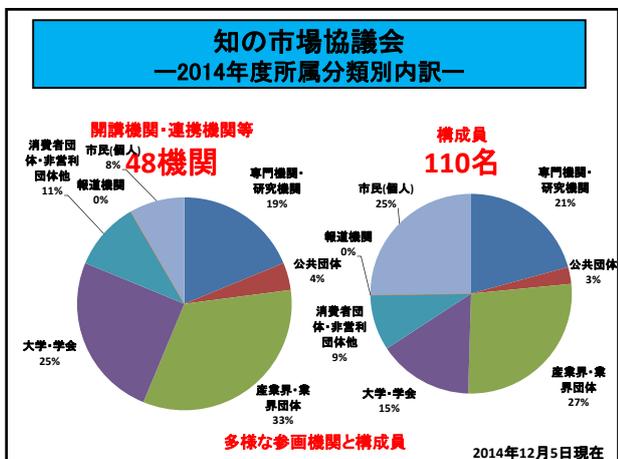
全国の全ての人々が自己研鑽と自己実現の機会を持つ教育活動

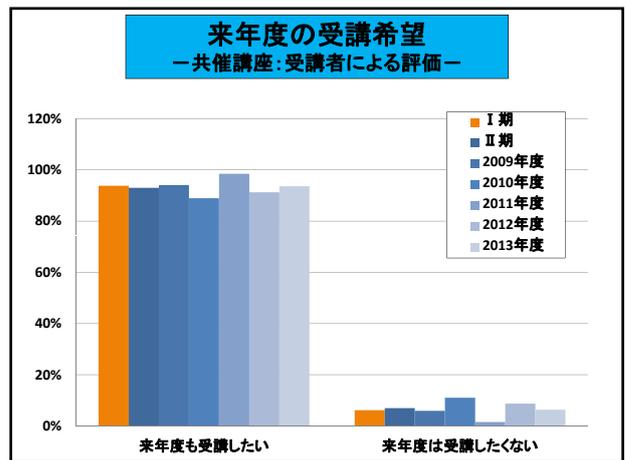
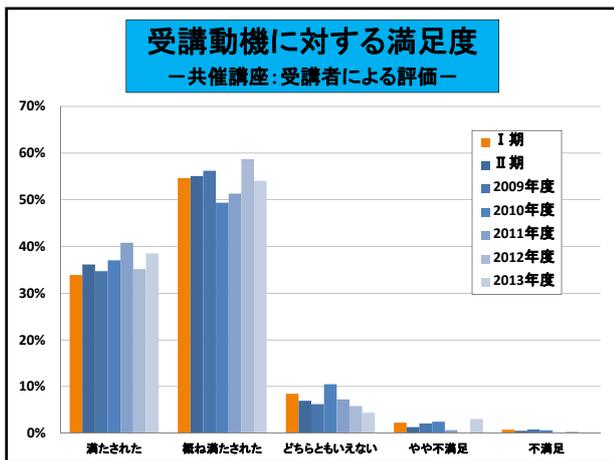
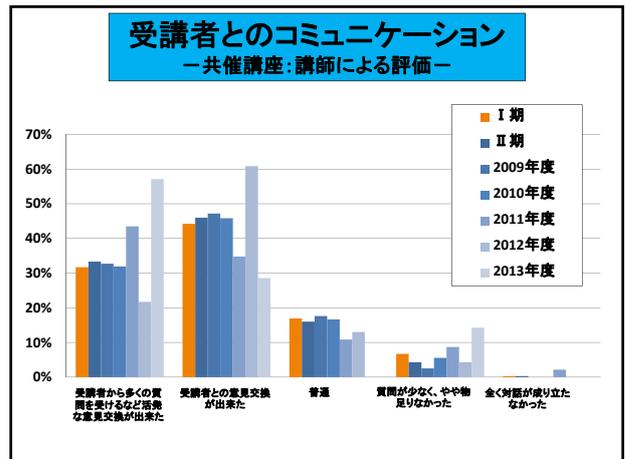
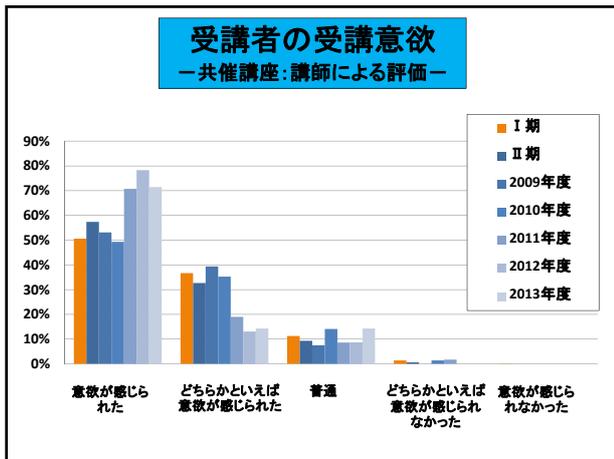
有志学生実行委員会		合計29名
学生実行委員	お茶の水女子大学	岩崎紀子 新藤翔月子 國智由紀子 川内真由 佐村真穂子 栗田節 藤井聡子 藤口陽子 松崎志枝 松崎かほる 三上奈穂子 金子雄 吉原有星
	東京大学	東東久美子 赤林幸将 (特別) 東神真紀子 (特別) 新井麻子 原香しのぶ 原真史 (特別) 原田康 (特別) 原田有香 神田典貴 北林智 武田雅夫 (特別) 藤口俊一 藤田千重 山崎徹 牧田敏子 (川崎) 渡辺和子 (特別/バウニア)
有志実行委員	国内	15名 都内 8名 都外 6名 海外 1名 男性 8名 女性 7名
	海外	

2014年12月5日

自己点検・外部評価

- I. 自己点検評価
 1. 協議会による評価
 2. 受講者や講師による評価
 - ①講師による科目評価
 - ②受講者による講義評価
 - ③受講者による科目評価
- II. 外部評価
 1. 評価委員会による評価
 2. 年次大会・奨励賞





年次大会の目的と構成

1. 目的

- 1) 年次大会は、知の市場の運営に携わる関係者が当年度の活動の実績や次年度の開講科目計画などを広く社会に対して公開して検証を受ける場を提供する。
- 2) 関係者が密接なコミュニケーションを行い認識の共有化を促進する場を提供する。

公開による外部評価
認識の共有化

2. 構成

- 1) 開講機関及び連携機関の活動の計画及び実績の報告
- 2) 奨励賞の授与及び記念講演
- 3) 特別講演
- 4) 知の市場の活動報告



奨励賞の授与 —実績—

年度	受講者		講師	参画・協力機関	
	個人	機関		開講／ 連携機関	連携機関 のみ
2010	1	—	0	3	0
2011	0	—	3	2	1
2012	0	—	5	1	0
2013	0	1	2	0	0
2014	0	0	1	0	0
合計	1	1	11	6	1

(2014年12月5日現在)

受講者の多い組織上位10傑

—共催講座 第I期・第II期・2013年度—

全2054組織から延べ8269名が受講：1組織あたり受講者4名

順位	所属名称	延べ 人数	順位	所属名称	延べ 人数
1	お茶の水女子大学	200	6	早稲田大学	66
2	花王	114	7	ADEKA(旭電化工業)	63
3	ライオン	90	8	動物臨床医学研究所	61
4	新エネルギー・産業技術 総合開発機構(NEDO)	75	9	出光興産	59
4	旭硝子(AGC)	75	9	住友ベークライト	59

知の市場の意義の拡大

1. 現役世代を中心とする幅広い年代、職業、地域の多様な人々に対して、総合的で実践的な学習機会を広く社会において提供する。
2. プロ人材の養成のみならず、幅広い高い水準の教養教育の場としても機能し、学校教育と社会人教育を繋ぐ。
3. 実社会での経験を活かしたい幅広い分野の多様な人々に、講師として現場を基点にしつつ教育に参画する機会を提供する。
4. 教育を本来業務としない多岐にわたる個人や組織、或いは、従来、教育に無縁な個人や組織が、自発的に教育に参画し自主的に活動する。
5. 全国の津々浦々で諸々の役割を担う社会の現場の全てが教育の現場としてもそれぞれ多様な輝きを放つ。
6. 自由な意思を持った人々の自発的で主体的な参画により、自立的でかつ自律的な活動を永続的に展開



「真の教育立国」の新展開

人間力

—真の教育立国—

マザー工場

時間的な継承
空間的な伝搬

工場・旅館・レストラン・・・
農家・漁師・運転手・・・
商店街・・・



全国の津々浦々の
全ての現場が
世界・社会の中で教育機関として機能

現場で働く者=教える者
学ぶ者は現場で働く場

知の市場

門柱は2本
〇〇事業所・〇〇教育所(学校)

知の市場の今後の展開

1. 恒常的な教育内容の向上
2. 全国の津々浦々の現場が参画



社会の現場を基点にした
自立的にして自律的な
自己研鑽と自己実現の基盤の構築

知の市場の今後の課題(1)

1. 分野の拡大と連携機関の拡充

- 1) 現代社会と世界動向を理解するために必要なより広範で総合的な自己研鑽の機会の提供
- 2) 多様な連携機関の参画を拡大し、多彩な講師による多岐にわたる科目の開講

2. 拠点の全国展開と開催機関の拡充

- 1) 自己研鑽の機会の日常化と普遍化を促進
- 2) 多様な開講機関の参画を拡大し、開講拠点の多彩化と全国化を促進

津々浦々の教育参画

知の市場の今後の課題(2)

3. 参画機関の機能の強化

(1) 全機関

- 1) 参画機関の垣根を越えた協働・協力関係の構築
- 2) 活動基盤の強化と自立的な活動の拡充

(2) 教育機関(大学・大学院)の課題

- 1) 大学・大学院の履修科目とし単位取得の対象として活用
- 2) 大学・大学院の科目を社会人に開放するなど活用

4. 内外の教育を巡る新たな動きとの連携

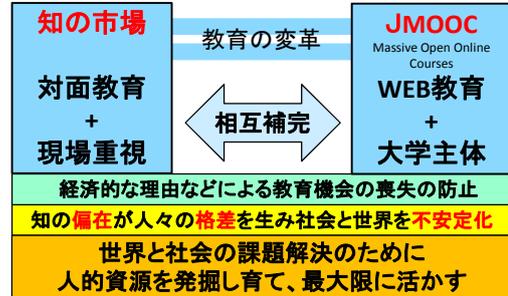
JMOOC・放送大学 他

5. 基盤の強化

- 1) 多彩な人々が自主的かつ主体的に参画する基盤を確立
- 2) 自立的かつ自律的に発展していくための活動基盤を確立

オープン・エデュケーション

—意義と特徴—



知の市場の展開

第0期: 黎明期(～2003年度)

第I期: 形成期(2004年度～2008年度)

第II期: 展開期(2009年度～2012年度)

第III期: 基盤完成期(2013年度～2015年度)

自己研鑽と自己実現のためボランティア活動の基盤構築

第IV期: 自立発展期(2016年度～)

完全にボランティア活動で運営する教育活動

「真の教育立国」の新展開

完